

平成 19 年度岩手県立総合教育センター

小学校国語科における
テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究
- 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の
作成と活用をとおして -

(第 1 報)

研究協力校
花巻市立南城小学校

岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
谷村 晴子

目 次

研究目的.....	1
研究仮説.....	1
研究の年次計画.....	1
今年度の研究内容与方法.....	1
1 目標.....	1
2 内容与方法.....	2
3 研究協力校.....	2
研究結果の分析と考察.....	2
1 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究についての基本的な考え方.....	2
(1) テキストを理解・評価しながら読む力とは.....	2
(2) テキストを理解・評価しながら読む力を育成することの意義.....	3
(3) 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の作成.....	3
(4) 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する基本構想図... 9	
2 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案.....	10
研究のまとめ.....	10
1 研究の成果.....	10
2 今後の課題.....	11

〔おわりに〕

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

読む力を高めるためには、テキストを肯定的にとらえて理解するだけでなく、内容や書き手の意図を解釈したり、形式・表現、論理的な思考の確かさなどを評価したりするといった学習活動を、考える力と連動した形で進めることが重要である。

しかし、平成18年度学習定着度状況調査結果報告によると、例年と形式を変えて出題された文章の読み取りに関わる問題で正答率が低かったことから、考えながら読む力が育成されているとはいえない状況が明らかになった。この要因として、授業が、文章の内容をとらえる読みの学習に偏りがちで、表現の意図や構成を考えたり、評価したりするような学習経験が不足していることが考えられる。

このような状況を改善するためには、学習指導要領に照らし合わせて、テキストを理解・評価しながら読む力を支える指導事項を教材レベルで具体化した「教師用ガイドシート」と、指導事項を身に付けるための学習に必要な「児童用学習シート」を作成し、その効果的な活用方法を工夫することにより授業の充実を図っていくことが必要である。

そこで、この研究は、小学校国語科において、教師用・児童用のシートを作成し、活用することをおして、小学校国語科における学習指導の改善に役立てることによりテキストを理解・評価しながら読む力の育成に資するものである。

研究仮説

小学校国語科において、以下のような「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」を作成し、活用することをおして授業の充実を図ったならば、テキストを理解・評価しながら読む力を育成することができるであろう。

- 1 児童が自分の考えを明確にするために必要な指導事項を指導要領に照らし合わせて整理した指導事項リストと指導事項を身に付けさせるための授業の在り方を示した「教師用ガイドシート」
- 2 児童が文章の内容や書き手の工夫について自分の考えを表現するために活用する「児童用学習シート」

研究の年次計画

この研究は、平成19年度から20年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成19年度）

研究の基本的な考え方の検討と基本構想の立案をする。その上でテキストを理解・評価しながら読む力の育成を図るための「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」を作成し、授業実践をおしてシートの活用について改善点を明らかにする。

第2年次（平成20年度）

第1年次に作成した「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の活用についての改善点を基に、授業実践を行い、その分析・考察をおしてテキストを理解・評価しながら読む力の育成状況についてまとめる。

本年度の研究内容と方法

1 目標

研究の基本的な考え方の検討と基本構想の立案をし、その上でテキストを理解・評価しながら

読む力の育成を図るための「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」を作成し、授業実践をとおしてシートの活用について改善点を明らかにする。

2 内容と方法

- (1) 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究についての基本的な考え方の検討及び基本構想の立案（文献法）
- (2) テキストを理解・評価しながら読む力の育成を図るための「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の作成（文献法）
- (3) 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成を図るための指導試案の立案と「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」を活用した授業実践計画の作成（文献法）
- (4) 授業実践計画に基づく授業実践（授業実践）
- (5) 授業実践結果についての分析と考察（授業実践・調査法）
- (6) 教材を理解・評価しながら読む力の育成を図るための「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の作成・活用についての改善点の明確化

3 研究協力校

花巻市立南城小学校

研究結果の分析と考察

1 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究についての基本的な考え方

(1) テキストを理解・評価しながら読む力とは

ア テキストを理解・評価しながら読む力とは

テキストを理解・評価しながら読む力とは、PISA 調査後課題となった「読解力」向上のための三つの重点目標のうちの一つとして用いられた表現である。

読解力向上に関する指導資料(文部科学省 2005)によると、テキストを理解・評価しながら読む力は、「目的に応じて理解し、解釈する能力の育成」「評価しながら読む能力の育成」「課題に即応した読む能力の育成」によって高まり、文学的文章に偏らず幅広い範疇の読み物や、パンフレットや図表等も含めた多様なテキストを対象とするよう求めている。

井上(2006)は、上記の三つの能力について以下のように述べた。「目的に応じて理解し、解釈する能力」とは、自らの目的に応じてテキストの意味や構成、表現の細部が果たす役割、筆者の表現意図などを理解したり解釈したりする能力であるとした。「評価しながら読む能力」とは、与えられたテキストについて主張の信頼性や客観性、科学的な知識や情報との対応、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさ、目的や表現様式に応じた表現法の妥当性など、幅広い観点から評価しながら読む批判的な読み(クリティカル・リーディング)の能力であるとした。「課題に即応した読む能力」とは、自己の目的を具体化し、様々な条件や課題が課せられたとき、それらに即応することができる能力であるとした。

すなわち、テキストを理解・評価しながら読む力とは、課題に応じた読み方により、テキストの内容や表現について理解・解釈し、解釈した内容や表現法について幅広い観点から評価しながら読む能力であると考えられる。

イ 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力とは

前述のことから、本研究では、テキストを理解・評価しながら読む力を、テキストの内容や書き手の意図を解釈し、解釈した内容や表現方法などについて自分の考えを明確にしながら読む力ととらえる。

テキストの内容や書き手の意図を解釈するとは、テキストに書かれたことを根拠にして内容や書き手の表現の工夫を的確にとらえることであると考え。具体的には、物語文や説明的文章で、文章や挿絵・図などから場面展開や登場人物の心情、テーマ、書き手の表現上の工夫などをとらえることである。

内容や表現方法について自分の考えを明確にするとは、解釈した内容について、それまでの経験と照らし合わせて自分の考えを表現することであると考え。具体的には、自分のそれまでの読書や学習の中で得た知識や実体験と照らし合わせて作品の内容やテーマが納得できるものであるかどうか自分の考えを表現したり、内容やテーマを伝えるための書き手の工夫が効果的かどうか自分の考えを表現したりすることである。

(2) テキストを理解・評価しながら読む力を育成することの意義

国語科において、テキストを理解・評価しながら読む力を育成することは、自分にとって価値のある文章を選び、その内容を正しく読み取る力を高めるのみならず、その文章の書き手に対して興味や関心をもって主体的に読む態度を育てることにつながると考える。なぜなら、テキストを評価するためには、テキストの内容や書き手の工夫の中から自分の判断のために必要な事項を正しく取り出し、その内容や工夫について自分の知識や書き手の考えを総合しながら的確に解釈することが必要だからである。また、テキストを理解するだけでなく、テキストに対して評価しながら読む力を高めることは、自分の考えを表現しようとする意欲の高まりが期待でき、「書くこと」「話すこと」の学習活動の充実にもつながると考える。

このようにテキストを理解・評価しながら読む力は、さまざまな情報が溢れる現代においては、児童自身が目的に応じて必要な情報を正確に取り出し、活用していくために必要不可欠な力であると考え。

しかし、国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成状況は十分とはいえない。例えば、平成18年度岩手県学習定着度状況調査では、文章の表現の特徴や工夫に気付いたり文章の内容を的確に押さえながら文章構成や要旨をとらえたりするといった課題に対応できない児童の実態が明らかとなった。この傾向は、例年と形式を変えて出題された問題においてより顕著であり、「読むこと」領域において自力で文章を読み解く思考力や判断力の育成状況に課題が指摘された。このような実態は、国際調査(PISA)結果や平成15年度小・中教育課程実施状況調査の結果から明らかになった、「文章を深く読んで分析的に理解してその上で記述する設問で正答率の低下している傾向」と通じるものである。

このような現状の改善のためには、国語科の学習をとおしてテキストを理解・評価しながら読む力を育成していかなければならないと考える。

(3) 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の作成

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めるために

教材文を評価しながら読ませるために、森田(1989)は、筆者の工夫を評価する読みの必要性を述べた。その中で、ことがらや内容の取り上げ方などの工夫は成功しているかどうか、説明の論理の構築の工夫に矛盾はないか、言葉の選び方の工夫は効果があるかどうかを問うことが

必要であると述べている。

有元(2007)は、自分の考えや体験と結び付け、文章や登場人物の評価を行わせるためには、焦点を絞った発問に文章を根拠にして答えさせたり、十分な時間をとってグループでの話し合いをさせたりすることが大切であるとした。

これらの先行研究から、テキストを理解・評価しながら読む力を高めるためには、文章の内容や書き手の工夫などについて自分の立場を明確にした上で表現することを求めるような学習活動の充実が必要であると考えられる。

しかし、国語科の学習では、読みの学習が文章の内容確認に偏りがちで、内容や書き手の表現上の工夫について評価する学習指導が十分に行われているとはいえない状況がある。これは、どのような観点で文章の内容や書き手の工夫について評価させたらよいか、そのための学習活動を学習過程のどの場でどのように取り扱っていけばよいか曖昧であることが要因であると考えられる。

このような状況を改善するためには、扱う教材に応じてどのような点について自分の考えを明確にさせればよいか、そのために文章のどの部分に着目させ内容や書き手の工夫を解釈させればよいか整理して示すことが必要である。また、単元の目標に到達する過程において、自分の考えを明確にする場を効果的に位置付け、単位時間の充実を図ることが必要である。

そこで、自分の考えを明確にするための指導事項を整理し、単元の指導計画・単位時間の指導の具体例について示した「教師用ガイドシート」とその学習に必要な「児童用学習シート」を作成し活用することにより、自分の考えを明確にする授業の充実を図りたいと考えた。

イ 教師用ガイドシート

(ア) 教師用ガイドシート

教師用ガイドシートとは、児童が自分の考えを明確にする学習を充実させるために必要な以下の四点を併せたものである。

テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する指導事項リスト

テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト

単元指導計画表

学習シートの活用ガイド

(イ) テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する指導事項リスト

テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する指導事項リスト(以下、指導事項リストAと表記)とは、児童が自分の考えを明確にする学習を充実させるためにどのように読ませていけばよいか指導事項として整理し、示すものである。

井上(1988)は、読んで理解するという行為は、文章を時間的・線条的に読み進めながら、それを空間的・立体的に再構成するという行為であるとした。そして、そこには読みの深まりの三層として、「文字づらの表面的な理解」の層、「内容の解釈」の層、「評価・批判・鑑賞」の三層があるとされた。読みの心理過程としては、この三つは分離されずに同時に行われるように感じるが、段階として三つに分けて考えることができるとした。また、上記のような心理過程から読みの授業における発問も、用語に関する知識や、基本的な事象認識など情報収集にすることがらを問う「基本的事象に関する発問」、内容の理解や解釈にすることがらを問う「解釈に関する発問」、一定の規準にもとづく妥当性・真偽の判断や、鑑賞にすることがらを問う「評価・批判・鑑賞」に関する発問に分類して考えることが便利であるとした。

鈴木(1988)は、読みの段階性として、直接心情を表す言葉による表現や情景の変化などに着目

し、心情の表れているところを取り出す「事象認識」の段階、取り出した表現などから、その時の心情がどんなものであるのかとらえる「関係認識」の段階、とらえた心情に対して、その作品の中での意味付けをしたり、それをとおして人間というものについて考えたりする「総合」の段階、とらえた心情から考えられる人間というものについて、意見や感想をもつ「価値付け」の段階を示した。

これらの先行研究を踏まえ、本研究においては、次の三つの過程を経て読みが深まるととらえることにする。第一の過程は、内容や書き手の工夫をとらえるための必要事項を正しく取り出す「取り出し」の過程とする。第二の過程は、取り出した事項をもとに文章の内容や書き手の工夫を解釈する「解釈する」過程とする。第三の過程は、解釈した内容や書き手の工夫について自分の考えを明確にする「考えを明確にする」過程とする。

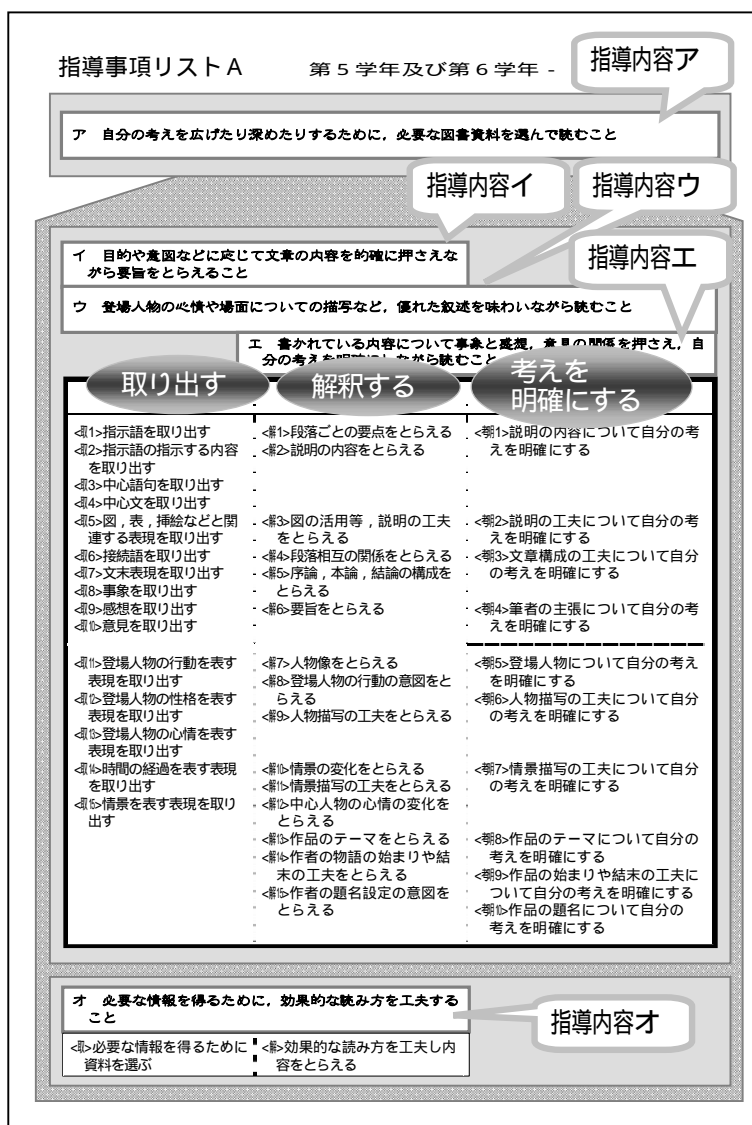
上記の過程に沿って、小学校学習指導要領の指導内容に基づき国立教育政策研究所作成の学習活動における具体的評価規準及び先行研究を参考にして、自分の考えを明確にするための指導事項を整理する。

小学校学習指導要領の指導内容は、読書的な読むこと、叙述内容に即した読むこと、想像的な読むこと、事実と感想に関わる読むこと、目的的な読むこと、声に出して読むことにかかわって内容が示されているが、「取り出す」「解釈する」「考えを明確にする」という過程に沿った指導事項の整理は、叙述内容に即した読むこと、想像的な読むこと、事実と感想にかかわる読むことについて行うこととした。これらは、高学年では、指導内容イ、ウ、エにあたる内容である。

【図1】は、高学年の指導事項リストAについて示したものである。

(ウ) テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト

テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト(以下、指導事項リストBと表記)とは、指導事項リストAに基づいて、扱う教材を分析し、「取り出す」「解釈する」「考えを明確にする」という過程に沿って、教材における指導事項を整理して示したものである。

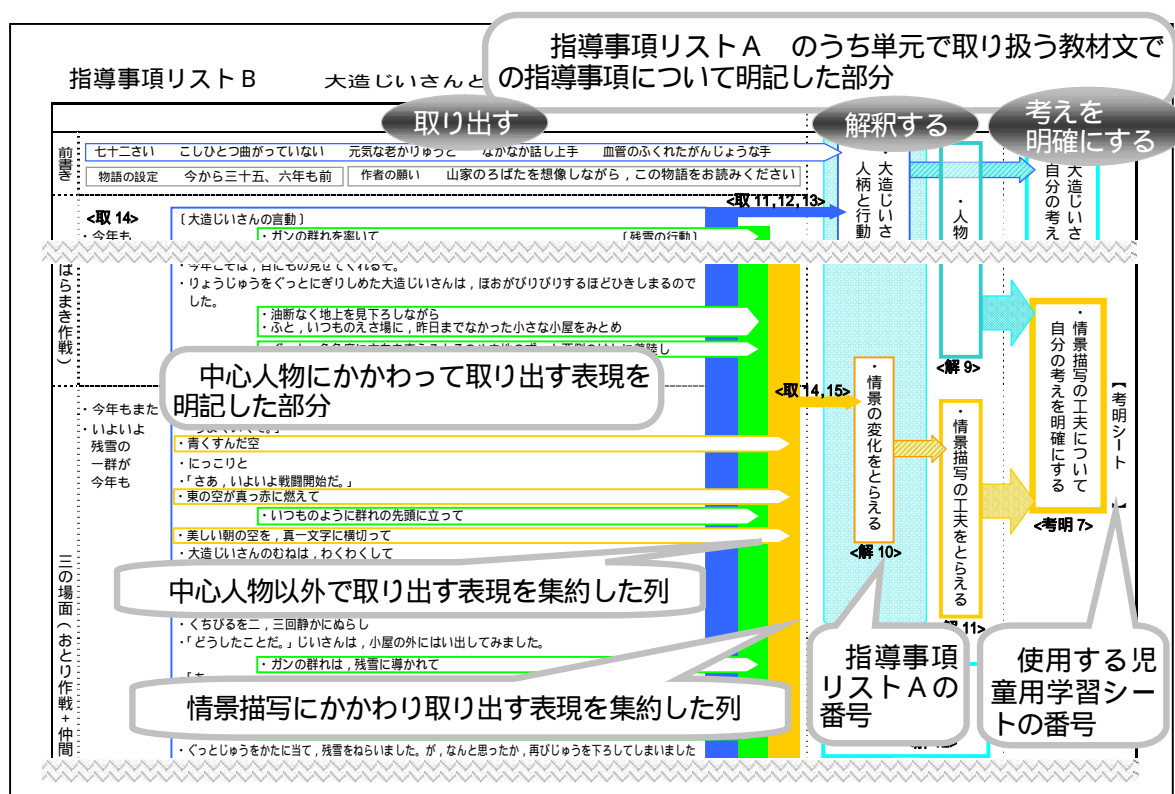


【図1】テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する指導事項リスト(第5学年及び第6学年) 指導事項リストA

「取り出す」の欄には、解釈のために必要な文章を示した。その際、物語文では中心人物にかかわる表現、中心人物以外の登場人物にかかわる表現、情景描写にかかわる表現を取り出した。説明的文章では、説明内容をとらえるための表現、構成を考えるヒントとなる表現、説明の工夫として着目させたい表現を取り出した。「解釈する」の欄には、指導事項リストAの中で、扱う教材をとおしてとらえさせたい内容や書き手の工夫を示した。「考えを明確にする」の欄には、単元の目標と照らし合わせて、指導事項リストAの中で指導が必要な事項を示した。また、指導事項の中でも、児童用学習シートを使用する事項には、そのシート番号を示した。

取り出した表現をどのように集約して解釈するための根拠にし、どんな事項についての解釈を踏まえて自分の考えを明確にしていくかを矢印で示した。

【図2】は、高学年物語文の指導事項リストBの一部である。



【図2】テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト(部分) 指導事項リストB

(I) 単元指導計画表

単元指導計画表とは、指導事項リストBの指導事項を単元のどの段階でどのように取り扱うか示したものである。

単元指導計画表には、単元名、教材、単元の目標、単位時間の学習指導目標、主な学習活動、指導の重点、具体的評価規準(Bの具体的な)、使用シート番号を示す。

指導の重点の欄には、指導事項リストBとのかかわりから、「取り出す」「解釈」「考えを明確にする」の中で重点とする過程を示した。「取り出す」過程が重点となる場合は「取り出す」、取り出した表現を「解釈する」過程が重点となる場合は「取り出す 解釈する」、解釈したことに基づいて自分の考えを明確にする過程が重点の場合は「解釈する 考えを明確にする」、考えを明確にする過程を重点にする場合は「考えを明確にする」と示した。

また、使用シート番号の欄には、学習の中で使用する児童用学習シートの番号を示した。

【図3】は、単元指導計画表を示したものである。

① 【単元名】学習したことを生かして < 16時間 >
 ② 【教材】 大造じいさんとガン
 ③ 【目標】 読みのめあてや学習課題の解決のため、学習方法を工夫して活動に取り組もうとしている。〔関〕

登場人物の心情や情景描写など優れた叙述を味わいながら読み、作品のテーマに対して自分の考えをもつ
 〔読ウ〕

自分が考えたことや意図したことが分かるように話の筋立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉で話す。〔話・聞〕

④ 意図に応じて ⑤ の考えを効果的に書く ⑥

時	学習指導目標	主な学習活動	指導の重点	具体的評価規準(5の具体的な姿)	読ウシート
7	残雪を見守る大造じいさんの気持ちを読み深めることができる。	1 英雄と呼びかけながら残雪を見守る大造じいさんの気持ちの変容を考えながら作品のテーマに迫る。	<解釈> <考えを明確にする> ・残雪が飛び立つシーンでスモモの花の散る情景を加えた作者の意図をとらえる。 ・登場人物の心情もあわすような情景描写の効果について自分の考えを明確にする。	(読ウ)表現の効果を考えながら、大造じいさんの心情を読み取っている。	考明 - 表現の効果について自分の考えを明確にする
8	題名について考えながら、作者の思いをとらえることができる。	1 題名を「大造じいさんとガン」とした理由を考えながらテーマに迫る。	<解釈> <考えを明確にする> ・大造じいさんの残雪に対する呼び方の変化から作者の意図をとらえる。 ・物語の題名について自分の考えを明確にする。	(読ウ)題名について考えながら、作者の思いを的確にとらえている。	考明 - 物語の題名について自分の考えを明確にする
9	作品のテーマについて、自分の考えをもつことができる。	1 「大造じいさんとガン」のテーマについて、自分の考えを持つ。	<考えを明確にする> ・作品にこめられた作者の思いや願いをとらえ、そのことについて自分の考えを明確にする。	(読ウ)作品のテーマに対する自分の考えを深めている。	考明 - 作品のテーマについて自分の考えを明確にする

【図3】単元指導計画表

(オ) 児童用学習シートの活用ガイド

児童用学習シートの活用ガイドとは、児童用学習シートを活用した学習が効果的に進められるよう、児童用学習シートの活用目的、学習のポイント、シート記入例を示したものである。

一つの観点について、自分の考えを明確にするためには、取り出した表現を的確に解釈していなければならないと考える。そこで、「学習のポイント」では、解釈のために必要な取り出し事項と解釈との関連を示す。

また、自分の考えを深めるためには、個々に自分の考えを記述するだけでなく自分以外のいろいろな考えに触れ、さらに自分で考えるといった学習活動が必要であると考え。そこで、効果的と考えられる児童用学習シートの活用場面と活用方法を示す。【図4】は、児童用学習シートの活用ガイドの基本スタイルである。

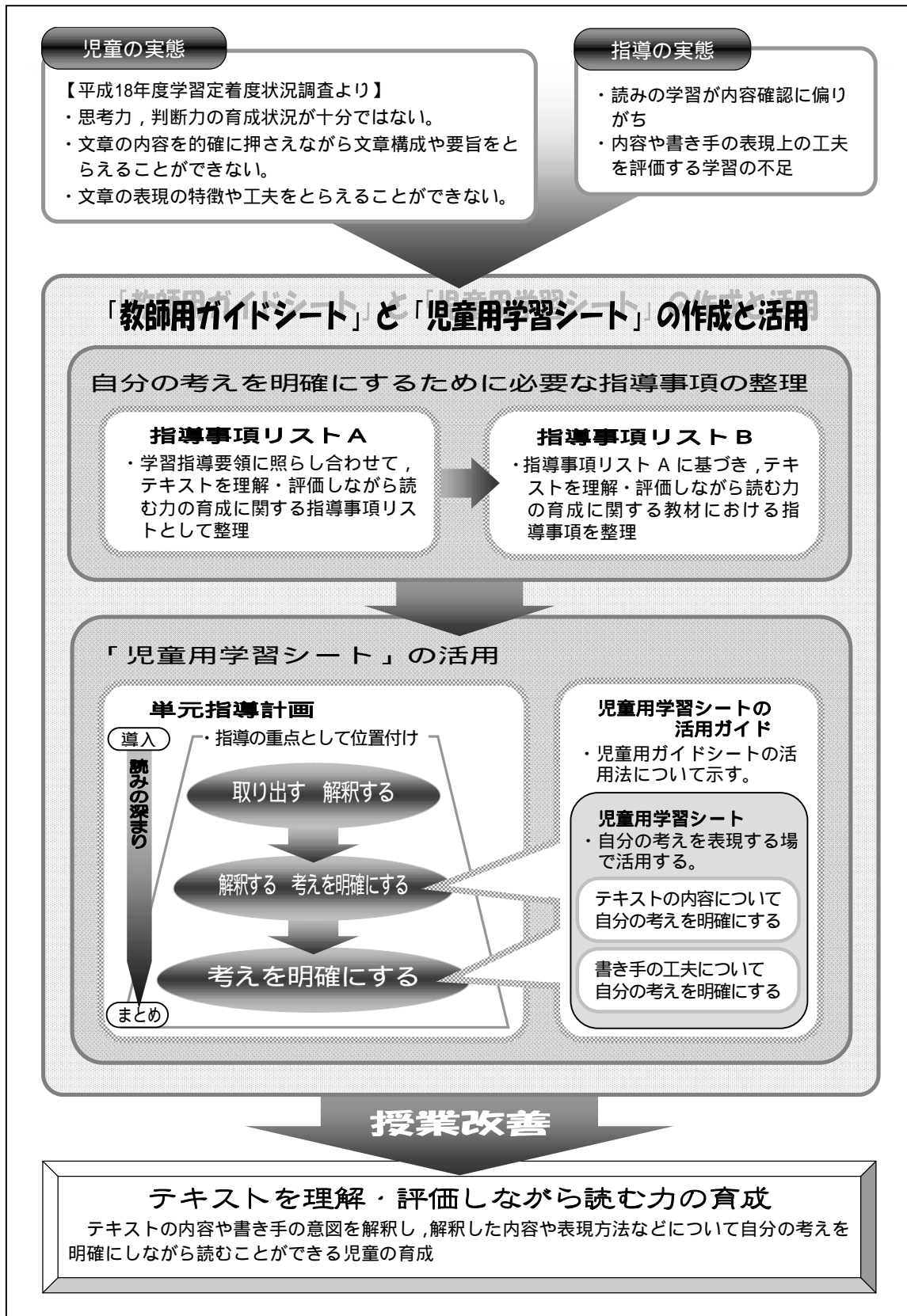
教材名 - シート番号	単元名
シートの活用目的 ・シートを活用した学習全体の目的を示す。	
学習のポイント ・解釈のために必要な取り出し事項と解釈との関連を示す。 ・学習シートの活用場面を示す。 ・児童の思考として予想される記述例を示す。	
シートの記入例 ・記入の一例と考える際の観点などを示す。	

【図4】学習シートの活用ガイドの基本スタイル

ウ 児童用学習シート

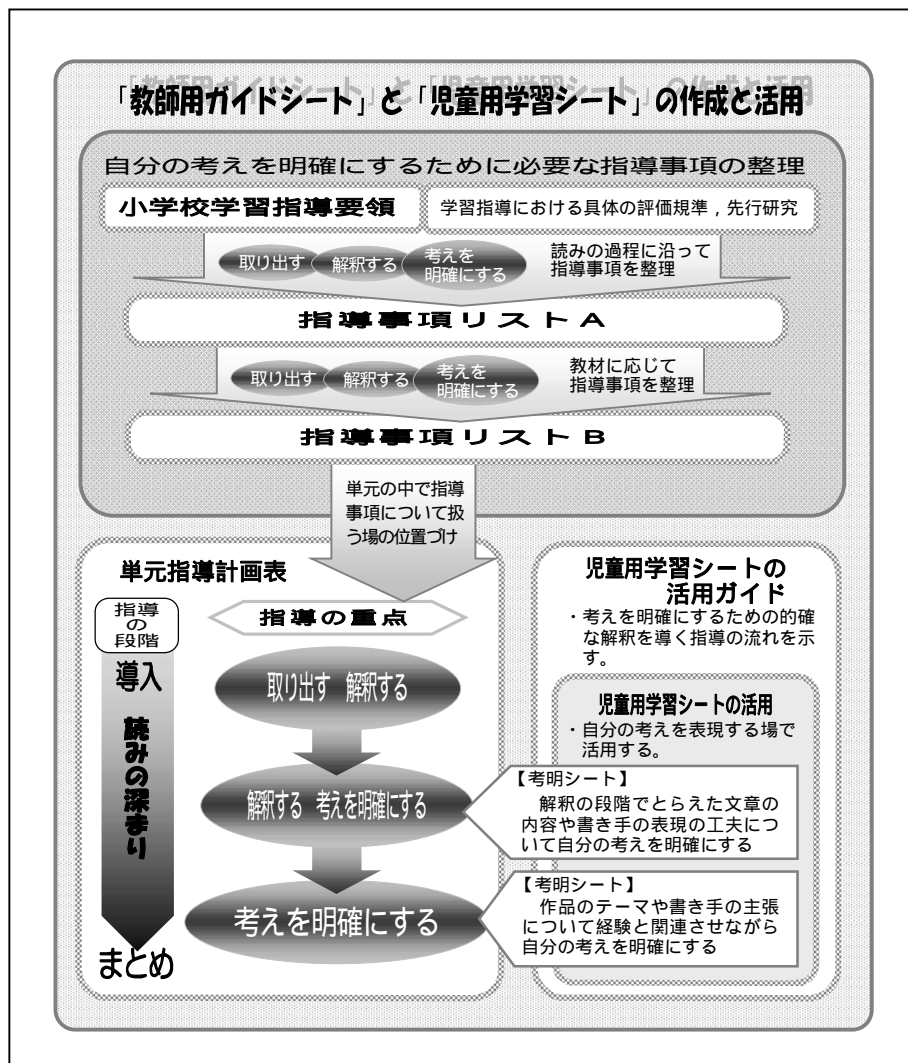
児童用学習シートとは、文章の内容や書き手の工夫について自分の考えを明確にするような活動を充実させるために児童が記述するシートである。「読むこと」の学習であっても、記述したり発表したりするような表現活動を伴わなければ、考えていることは明確にはならないと考える。そこ

- (4) 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する基本構想図
 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する基本構想を【図6】にまとめた。



【図6】小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する基本構想図

2 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案の作成
 基本構想をふまえ、
 「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案を【図7】のように作成した。



研究のまとめ

【図7】児童用学習シートの活用を位置付けた指導試案

1 研究の成果

この研究は、小学校国語科において「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」の作成と活用をとおして児童のテキストを理解・評価しながら読む力の育成を図るものである。本年度は、テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究の基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案した。また、基本構想に基づいて「教師用ガイドシート」と「児童用学習シート」を作成し、「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案を作成した。

本年度の研究の結果成果としてあげられるのは、次の点である

- (1) 小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する基本的な考え方の検討

「読解力向上プログラム」及び先行研究から、小学校国語科においてテキストを理解・評価しながら読む力を育成することの必要性について確認した。また、小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成のために、小学校学習指導要領に基づき自分の考えを明確にするための指導事項を整理し、指導事項リストとして示すことができた。

- (2) 「教師用ガイドシート」「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案の作成

本研究における基本構想に基づき、自分の考えを明確にするための指導事項を教材レベルで整理し、その定着のための場を単元の指導の流れの中に位置付けた単元指導計画表を作成す

ることができた。また、自分の考えを明確にする学習に必要な児童用学習シートを作成し、その効果的な活用を促すためには、考えを明確にするための的確な解釈を導く指導の流れを示すガイドの必要性を確認することができた。

2 今後の課題

第2年次の研究では、本年度の研究成果を踏まえて、自分の考えを明確にする「児童用学習シート」の活用を位置付けた指導試案に基づいた授業実践を行い、その分析と考察をとおして、小学校国語科におけるテキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する研究のまとめを行う。

〔おわりに〕

この研究を進めるにあたって、ご協力をいただいた研究協力校の先生方に心から感謝申し上げます。

【引用文献】

- 有元秀文(2007), 『教育科学国語教育 No684』, 明治図書出版, pp.122 - 125
井上一郎(2006), 『読解力向上をめざした授業づくり』, 東洋館出版社, pp.10 - 11
井上尚美(1988), 『思考力を伸ばす読みの指導』, 学芸図書株式会社, pp.9 - 12
鈴木二千六(1988), 『思考力を伸ばす読みの指導』, 学芸図書株式会社, pp.34 - 36
森田信義(1989), 『筆者の工夫を評価する説明的文章の指導』, pp.38 - 46

【引用 Web ページ】

文部科学省(2005) 読解力向上に関する指導資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201.htm

【参考文献】

- 井上一郎(2003), 『読む力の基礎・基本 - 17の視点による授業づくり』, 明治図書出版
北川達夫&フィンランド・メソッド普及会 訳・編(2005),
『フィンランド・メソッド 5つの基本が学べるフィンランド国語教科書』, 経済界
国語教育実践理論研究会(2007), 『読解力再考』, 東洋館出版社
国立教育政策研究所(2005), 『平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査結果の概要』
小森茂(2007), 『小学校国語科 PISA 型読解力向上の学習問題と解説』, 明治図書出版
全国国語授業研究会(2005), 『読解力を高める - 授業者からの提案 - 』, 東洋館出版社
森山卓郎(2007), 『「言葉」から考える読解力』, 明治図書出版
文部省(1998), 『小学校学習指導要領』
文部省(1999), 『小学校学習指導要領 解説 国語編』
文部科学省(2005), 『読解力向上プログラム』
メルヴィ・バレ/マルック・トリネン/リトバ・コスキパー著
北川達夫&フィンランド・メソッド普及会(2005), 『図解 フィンランド・メソッド入門』, 経済界
【参考 Web ページ】

東京大学大学院教育学研究科教育測定・カリキュラム開発講座(2006)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/paper.html>

横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター 読解力向上のための指導事例集

<http://www.edhs.ynu.ac.jp/mt/news/2007/jireisyu2006.html>

補充資料

【補充資料 1】 テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する指導事項リスト.....	資 1
【補充資料 2】 テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト.....	資 2
【補充資料 3】 単元指導計画表.....	資 3

指導事項リストA

第5学年及び第6学年 -

ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと

イ 目的や意図などに応じて文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと

エ 書かれている内容について事象と感想，意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと

取り出す	解釈する	考えを明確にする
<取1>指示語を取り出す <取2>指示語の指示する内容を取り出す <取3>中心語句を取り出す <取4>中心文を取り出す <取5>図、表、挿絵などに関連する表現を取り出す <取6>接続語を取り出す <取7>文末表現を取り出す <取8>事象を取り出す <取9>感想を取り出す <取10>意見を取り出す	<解1>段落ごとの要点をとらえる <解2>説明の内容をとらえる <解3>図の活用等，説明の工夫をとらえる <解4>段落相互の関係をとりえる <解5>序論，本論，結論の構成をとらえる <解6>要旨をとらえる	<翻1>説明の内容について自分の考えを明確にする <翻2>説明の工夫について自分の考えを明確にする <翻3>文章構成の工夫について自分の考えを明確にする <翻4>筆者の主張について自分の考えを明確にする
<取11>登場人物の行動を表す表現を取り出す <取12>登場人物の性格を表す表現を取り出す <取13>登場人物の心情を表す表現を取り出す <取14>時間の経過を表す表現を取り出す <取15>情景を表す表現を取り出す	<解7>人物像をとらえる <解8>登場人物の行動の意図をとらえる <解9>人物描写の工夫をとらえる <解10>情景の変化をとらえる <解11>情景描写の工夫をとらえる <解12>中心人物の心情の変化をとらえる <解13>作品のテーマをとらえる <解14>作者の物語の始まりや結末の工夫をとらえる <解15>作者の題名設定の意図をとらえる	<翻5>登場人物について自分の考えを明確にする <翻6>人物描写の工夫について自分の考えを明確にする <翻7>情景描写の工夫について自分の考えを明確にする <翻8>作品のテーマについて自分の考えを明確にする <翻9>作品の始まりや結末の工夫について自分の考えを明確にする <翻10>作品の題名について自分の考えを明確にする

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること

<取>必要な情報を得るために資料を選ぶ | <解>効果的な読み方を工夫し内容をとりえる

【補充資料2】テキストを理解・評価しながら読む力の育成に関する教材における指導事項リスト

指導事項リストB 大造じいさんとガン -

	取り出す	解釈する	考えを明確にする
前書き	七十二さい こしひとつ曲がっていない 元気な老かりゅうど なかなか話し上手 血管のふくれたがんじょうな手 物語の設定 今から三十五、六年も前 作者の願い 山家のろばたを想像しながら、この物語をお読みください		
一の場面（ウナギつりばり作戦）	<p><取 14></p> <p>今年も</p> <p>〔大造じいさんの言動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガンの群れを率いて ・油断なく気を配っていて ・決して人間をよせつけませんでした。 <p>頭領らしい、なかなかこうなやつ</p> <p>いまいましく思っていました</p> <p>今年こそはと、かねて考えておいた特別な方法に取りかかり</p> <p>一晩じゅうかかって、たくさんウナギつりばりをしかけて</p> <p>今度は、なんだかうまくいきそうなきがしてなりません</p> <p>じいさんは、むねをわくわくさせながら</p> <p>「しめたぞ。」じいさんはつづやきながら</p> <p>思わず子どものように声を上げて喜びました</p> <p>たかが鳥のことだ</p> <p>秋の日は美しくかがやいていました。</p> <p>「はてな。」と首をかしげました。</p> <p>「ううむ。」大造じいさんは、思わず感嘆の声を</p> <p>どうしてなかなか、あの小さい頭の中に、たいしたちえをもっているものだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの人柄と行動をとらえる <解 7> ・残雪の行動をとらえる <解 7> 	<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの行動について自分の考えを明確にする <考明 5> ・残雪の行動について自分の考えを明確にする <考明 5>
	<p>翌日の昼近く</p> <p>その翌日、昨日と同じ時刻に</p> <p>二の場面（タニシばらまき作戦）</p> <p>その翌年</p> <p>その夜</p> <p>その翌日</p> <p>四、五日も続いたので</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例によって、ぬま地のうちでも見通しのきく所をえさ場を選んで ・夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めて ・ガンの好みそうな場所にばらまいておきました。 ・うんとこさとまいておきました。その翌日も、そのまた翌日も同じようなことをしました。 ・会心のえみをもらしました。 ・あかつきの光が、小屋の中ですぐがしく流れこんできました。 ・しめたぞもう少しのしんぼうだ。 ・今年こそは、目にも見せてくれるぞ。 ・りょうじゅうをぐつとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほどひきまるのでした。 ・油断なく地上を見下ろしながら ・ふと、いつものえさ場に、昨日までなかった小さな小屋をみとめ ・ぐつと、急角度に方向を変えるとそのぬま地のずっと西側のはしに着陸し ・広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、「ううん。」とうなっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写をとらえる <解 7> ・情景の変化をとらえる <解 10> ・情景描写の工夫をとらえる <解 9> 	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写の工夫について自分の考えを明確にする <考明 7>
三の場面（おとり作戦+仲間を守る残雪）	<p>今年もまた</p> <p>いよいよ</p> <p>残雪の一群が</p> <p>今年も</p> <p>今年もまた</p> <p>「今年のひとつ、これを使ってみるかな。」と独り言を言いました</p> <p>「うまくいくぞ。」</p> <p>青くすんだ空</p> <p>にっこりと</p> <p>「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」</p> <p>東の空が真っ赤に燃えて</p> <p>いつものように群れの先頭に立って</p> <p>美しい朝の空を、真一文字に横切って</p> <p>大造じいさんのむねは、わくわくして</p> <p>しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待ち</p> <p>冷え冷えするじゅう身をぎゅつとにぎりしめ</p> <p>今日こそ、あの残雪めにひとあわぶかせてやる</p> <p>くちびるを二、三回静かにぬらし</p> <p>「どうしたことだ。」じいさんは、小屋の外にはい出してみました。</p> <p>ガンの群れは、残雪に導かれて</p> <p>「あっ。」</p> <p>じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛をふき</p> <p>白い羽毛があかつきの空に光って</p> <p>ざっと大きなかげが空を横切りました。</p> <p>ぐつとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました</p> <p>残雪の目には、人間もはやぶさありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。</p> <p>いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。</p> <p>羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散り</p> <p>大造じいさんはかけつけました。</p> <p>2羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。</p> <p>むねの辺りをくれないにそめて、ぐつたりとしていました。</p> <p>残りの力をふりしぼって、ぐつと首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。</p> <p>それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。</p> <p>大造じいさんが手をのばしても</p> <p>もうじたばたさわざませんでした。</p> <p>強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの心情の変化をとらえる <解 12> ・作品のテーマをとらえる <解 14> ・作者の題名設定の意図をとらえる <解 15> 	<ul style="list-style-type: none"> 【考明シート】 ・作品のテーマについて自分の考えを明確にする <考明 8> ・作品の題名について自分の考えを明確にする <考明 10>
	<p>春になると</p> <p>ひと冬をこし</p> <p>ある晴れた春の朝でした。</p> <p>おりのふたをいっぱい開けてやりました。</p> <p>あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。が、バシッ。快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。</p> <p>らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。</p> <p>おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ</p> <p>おれたちは、また堂々と戦おうじゃないか</p> <p>北へ北へと飛び去っていく</p> <p>晴れ晴れとした顔つきで見守っていました</p> <p>いつまでも、いつまでも、見守っていました</p>		
四の場面（残雪を見守る大造じいさん）			

【補充資料3】単元指導計画表

【単元名】学習したことを生かして < 16時間 >

【教材】大造じいさんとガン

【目標】読みのめあてや学習課題の解決のため、学習方法を工夫して活動に取り組みようとしている。〔関〕

登場人物の心情や情景描写など優れた叙述を味わいながら読み、作品のテーマに対して自分の考えをもつ
〔読ウ〕

自分が考えたことや意図したことが分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。〔話・聞ア〕

目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。〔書ア〕

時	学習指導目標	主な学習活動	指導の重点	具体的評価規準(Bの具体的な姿)	使用シート
1	物語を読んで、読みのめあてを決め、学習計画を立てることができる。	1 1年間で取り組んだ学習活動や身につけた力について振り返り、学習計画を立てる。			
2		1 「大造じいさんとガン」を読み初発の感想をもつ。		(関)自分で読みのめあてや学習課題を決め、学習方法を工夫して活動に取り組みようとしている。	
3		1 難語句を調べる。 2 読書発表会までの取り組みの見直しを持つ。			言語 - 難語句について調べる
4	前書きがつけられた理由を考えながら、物語の場面設定や大造じいさんの人柄をとらえることができる。	1 「前書き」から、物語の設定についてとらえる。 2 場面の移り変わりや時間の経緯をとらえる。	<取り出し> <解釈> ・大造じいさんの人柄を表す表現を取り出し、人物像をとらえる。 ・場面の移り変わりを示す表現を取り出し、時間の経緯をとらえる。	(読ウ)前書きの部分から時、場所、人物の設定をとらえている。 (読ウ)全体を読み通し、表現にそって、場面の移り変わりを読み取っている。	取解 - 大造じいさんの人柄と行動をとらえる
5	各作戦とその結果から大造じいさんの気持ちの変化をとらえることができる。	1 残雪に対する大造じいさんの気持ちの移り変わりを四場面のつながりもとらえる。	<取り出し> <解釈> ・場面ごとの大造じいさんの作戦とその結果に伴う大造じいさんの心情を表す表現を取り出す ・作戦ごとの大造じいさんの心情の変化をおおまかにとらえる。	(読ウ)全体を読み通し、場面ごとの大造じいさんの心情の移り変わりを大まかにとらえている。	取解 - 大造じいさんの心情の変化をとらえる
6	残雪の態度に感動する大造じいさんの気持ちをとらえることができる。	1 残雪の態度に強く心をうたれる大造じいさんの気持ちを読み取る。	<取り出し> <解釈> ・はやぶさに向かう残雪の姿に心が動く大造じいさんの心情を表す表現を取り出す。 ・残雪の行動に心を打たれる大造じいさんの心情をとらえる。	(読ウ)表現に着目して、大造じいさんの心情の移り変わりを読み取っている。	取解 - 登場人物の行動について自分の考えを明確にする
7	残雪を見守る大造じいさんの気持ちを読み深めることができる。	1 英雄と呼びかけながら残雪を見守る大造じいさんの気持ちの変容を考えながら作品のテーマに迫る。	<解釈> <考えを明確にする> ・残雪が飛び立つシーンでスモモの花の散る情景を加えた作者の意図をとらえる。 ・登場人物の心情もあらかずような情景描写の効果について自分の考えを明確にする。	(読ウ)表現の効果を考えながら、大造じいさんの心情を読み取っている。	考明 - 表現の効果について自分の考えを明確にする
8	題名について考えながら、作者の思いをとらえることができる。	1 題名を「大造じいさんとガン」とした理由を考えながらテーマに迫る。	<解釈> <考えを明確にする> ・大造じいさんの残雪に対する呼び方の変化から作者の意図をとらえる。 ・物語の題名について自分の考えを明確にする。	(読ウ)題名について考えながら、作者の思いを的確にとらえている。	考明 - 物語の題名について自分の考えを明確にする
9	作品のテーマについて、自分の考えをもつことができる。	1 「大造じいさんとガン」のテーマについて、自分の考えを持つ。	<考えを明確にする> ・作品にこめられた作者の思いや願いをとらえ、そのことについて自分の考えを明確にする。	(読ウ)作品のテーマに対する自分の考えを深めている。	考明 - 作品のテーマについて自分の考えを明確にする
10 ~ 14	読書発表会に向けて、学習課題を決め、活動を進める。	1 「大造じいさんとガン」の学習を振り返り、自分で取り組む課題を決める。 2 読書発表会に向けて、個人やグループで準備を進める。		(関)読書発表会に向け、学習方法を工夫して活動に取り組みようとしている。 (書ア)発表テーマに応じて、方法を工夫して表現している	
15 16	読書発表会を開く	1 読書発表会を開き感想を交流する。 2 学習全体を振り返る。		(話・聞ア)話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。	